



株主のみなさまへ

第46期 営業のご報告

2006年4月1日～2007年3月31日

CONTENTS

企業理念	2
決算ハイライト	3
社長メッセージ	4
特集 ：世界戦略の進展	6
営業活動のご報告	8
第46期の取り組み	9
当期のトピックス	10
株主様アンケート結果のご報告	12
株主優待のご紹介	15
連結財務諸表	16
会社概要	18
株式概要	19

Ever Onward — 限りなき前進

当社はこの経営理念のもと、世界にない新技術の開発を目指し、最高機能の製品を経済的な価格で提供する総合メカトロニクス企業として、ユーザー業界にイノベーションを起こし続けています。

当社の歩みは、45年前、若きエンジニアであった現社長・島正博が、「手袋編機の全自動化」という難課題を解決するため、小さな町工場を和歌山市に興したことに始まります。

この世界初への挑戦は、様々な難問を克服しながら3年後に成功。その豊かな発想力と情熱は、その後衣料用編機の本分野で未開拓であった機械技術と電子技術の融合へといち早く向かい、数々の新製品を創出しました。

これにより先発の海外メーカーをはるかに凌駕し、世界のトップランナーに躍り出た当社は、1995年、ニット製品を無縫製で編み上げる「ホールガーメント®(無縫製ニット)横編機」を発表。ニット業界の

産業構造を労働集約型から知識集約型へと転換を促しました。

そして現在、当社はコスト競争力と高機能性を備えた製品群に強固な販売ネットワークを加え、世界のニット・アパレル業界の発展に貢献する企業へと成長しています。

常に顧客の立場でニーズを先取りした技術開発に全力を尽くす——当社は、編機、デザインシステムをコアに、蓄積したノウハウ、デザインを含めた総合的サービスと情報提供によって、衣の文化を創造し、世界中の人々の心を豊かにすることを目指しています。

当社のコア技術と製品

メカトロニクス技術とコンピュータ技術。当社はこの2つの技術をベースにした独創的な製品を提供することで、世界のニット産業の発展に貢献してきました。原点である「手袋編機」から「コンピュータ横編機」、さらには「ホールガーメント横編機」への開発の歴史は、当社のメカトロニクス技術の進化の証しであり、同時にデザインシステムを核としたコンピュータ・テクノロジーとの複合化によって、業界のモノづくりに革命を起こしています。

技術とともにノウハウを提供

ハードウェア、ソフトウェアの開発、製造はもとより、製品を駆使していただくため、本社「トータルデザインセンター」で蓄積したノウハウやデザイン情報を発信し続けています。



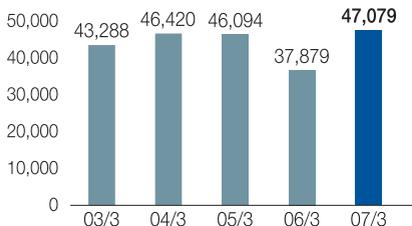
決算ハイライト(連結)

科 目		当 期 2007年3月期	前 期 2006年3月期	前期比
売上高	(百万円)	47,079	37,879	+ 24.3%
営業利益	(百万円)	7,709	4,023	+ 91.6%
経常利益	(百万円)	9,450	5,634	+ 67.7%
当期純利益	(百万円)	3,113	3,404	△ 8.5%
1株当たり当期純利益	(円)	86.17	91.92	△ 6.3%
総資産	(百万円)	129,161	109,302	+ 18.2%
純資産*	(百万円)	92,810	95,522	△ 2.8%

※ 当期より、「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準第5号 平成17年12月9日)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準適用指針第8号 平成17年12月9日)を適用しております。前期以前は従来の少数株主持分と資本の部を合計しております。

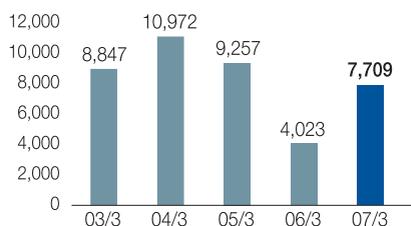
売上高

(単位:百万円)



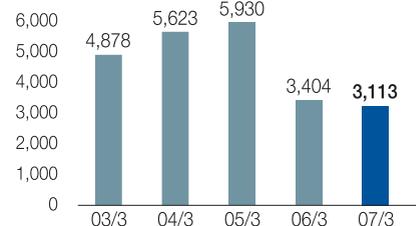
営業利益

(単位:百万円)



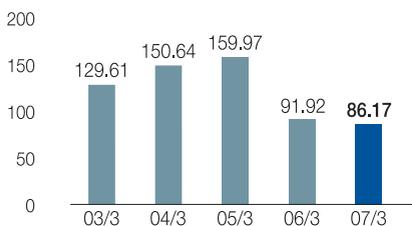
当期純利益

(単位:百万円)



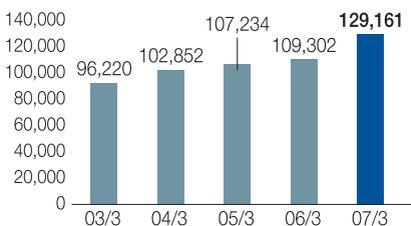
1株当たり当期純利益

(単位:円)



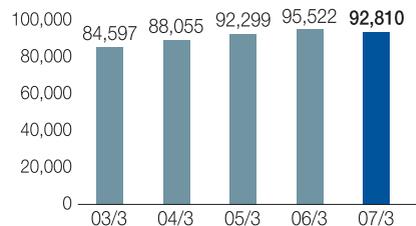
総資産

(単位:百万円)



純資産*

(単位:百万円)



将来の見通しについて

本報告書に記載されている将来に関する予測については、現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断に基づいて行った予測であり、実際の業績は、さまざまな要素により、これら予測とは異なる結果となる場合があることをご承知おください。

当期は、世界の重要市場で戦略的な事業変革を 推し進めた「革新」の一年でした。

中国、香港市場の需要が活発で、過去最高の売上高を達成しました。

Q 第46期(2007年3月期)の
業績の概要を説明してください。

A 下期以降、海外販売戦略に加え新機種投入の効果が現れ、
中国、香港市場での受注が伸びたため、
売上高は過去最高を記録しました。

ニットをめぐる世界市場では、消費地型の生産地域と労働集約型の大量生産地域との二極化が一層、鮮明になってきています。なかでも労働集約型の中国、香港市場は、人件費の高騰を背景に手動式横編機からコンピュータ横編機への置き換えが進み、さらに当期に投入した新機種が市場ニーズに合致し好評であったことから売上は増大しました。下期以降、受注増に対しては、一昨年末に完成した新工場の横編機生産ラインがフル稼働で対応し、カバーできました。

こうした結果、売上高は過去最高の470億79百万円(前期比24.3%増)を達成しました。利益面でも、営業利益は、増産による原価低減効果などにより77億9百万円(前期比91.6%増)、経常利益は、円安傾向で為替差益が発生し94億50百万円(前期比67.7%増)といずれも大幅な増加となりましたが、当期純利益は、海外事業の再編に伴う特別損失を計上したことなどにより31億13百万円(前期比8.5%減)となりました。

配当につきましては、当初の予定通り1株につき20円の普通配当とし、すでに実施済みの中間配当金17円50銭を加え、通期で1株につき37円50銭とさせていただきます。

代表取締役社長
島 正博

Q 世界の市場動向と販売戦略の進捗について説明してください。

A 輸出比率がさらに高まるなか、重要市場での販売体制を直販に切り替えるなど、海外戦略を明確にし、今後の成長に向けた基盤を構築しました。

当期、中国、香港市場の伸張により、海外売上比率は90.9%にまで高まりました。海外市場に向けての販売戦略が極めて重要となるなか、当社は当期、主要地域で代理店による間接販売から直販体制へと大きく転換しました。

香港では、子会社を設立し販売代理店から事業譲渡を受け、中国市場をカバーする体制を構築しました。米国では、大手ニットメーカーの子会社化とニューヨークデザインセンターを開設し、イタリアでも販売代理店を子会社化しました。これらの狙いについては、世界戦略のページで説明しています（p.6参照）。

Q ホールガーメント®横編機の販売戦略はどう展開しましたか。

A 海外市場でホールガーメント横編機の強みを直接、訴求する体制へと変革しました。

当社が世界で初めて開発したホールガーメントの獨創性は、今年3月「大河内記念生産特賞」を受賞したことでも明らかかなように（p.10参照）、ニット産業を変革する高度な生産方式と高く評価されています。

しかしながらホールガーメント横編機の販売実績は、2004年3月期をピークに前期比マイナスにとどまっています。

製品の着やすさや、作り足しを可能にするといった数々のメリットを発揮するホールガーメントの優位性を再度浸透させるために、当期、海外子会社を通じユーザーに直接情報発信し、技術支援する体制へと変革しました。また2007年9月にドイツ・ミュンヘンで開催される世界最大の繊維機械見本市「ITMA2007」には、ホールガーメント横編機の最新鋭機を展出し、新たな市場を創造してまいります。

当期、日本ではホールガーメントのニットワンピースがヒットしました（p.7参照）。「ニット=セーター」という固定概念ではなく、ホールガーメントによるさまざまなニット製品の開拓が始まっています。

今後、ホールガーメント横編機の拡販にあたっては、SDS-ONE®を中心に一貫通貫のモノづくりを実現するトータルファッションシステムの浸透が欠かせません。独自に蓄積したノウハウとともにこれを世界に広げることで、ホールガーメントの普及につなげてまいります。

Q 次期の業績見通しと株主のみなさまへのメッセージをお願いします。

A 中国、香港市場の旺盛な需要により売上、利益とも過去最高の業績を計画。次なるステップへの施策も検討していきます。

次期は、中国、香港市場での需要が引き続き高いレベルで推移することが予想されることに加え、当期に設立した連結子会社の業績が通年で合算されます。そのため売上、利益とも大幅な増加を見込み、売上高550億円（前期比16.8%増）、営業利益120億円（同55.7%増）、経常利益120億円（同27.0%増）、当期純利益65億円（同108.8%増）を計画しています。これらは全て過去最高の業績見込みです。

また配当につきましては、業績の向上が見込まれることから、中間配当金は普通配当を2円50銭増配し、創立45周年の記念配当2円50銭と合わせて、1株につき5円増配の22円50銭とする予定です。期末配当金は20円とし、年間配当金は42円50銭を予定しています。

中国、香港市場の伸張は次期以降も期待できるとはいえ、日本や欧州、米国をはじめ他地域での展開を強化し、製品面も含め複数の柱で支える体制を築くことは、今後の当社グループの成長にとって重要な課題と考えています。

株主のみなさまには当社事業の進捗と成果にご期待いただくとともに、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

※ 業績見通しの前提となる為替レートは、米ドル115円、ユーロ150円を想定



中国の主要マーケット



- ① 華北エリア(北京、内モンゴル)
カシミア産地で高級品を供給。
近年、生産増大。
- ② 華東エリア
(上海、浙江省、江蘇省)
欧米向けのほか内需が増大し、
高い伸び率。新興企業中心。
- ③ 華南エリア(香港、広東省、福建省)
豊富な労働力を背景とした主力
生産地域。欧米向けが中心。

※ エリア名称は当社呼称です

- 現地サービスおよび
販売拠点

in CHINA

世界最大のニット生産拠点 — 中国、香港で ユーザーニーズを反映した 販売活動を本格化します

世界の工場として急速に経済発展を遂げる中国では、沿海部を中心に労働力が不足し、人件費も高騰しています。世界最大の生産・輸出量を誇る中国のニット産業でも、主流である手動式横編機から、生産効率を飛躍的に向上できるコンピュータ横編機への移行が加速しています。

このような市場動向に対応するため、中国市場では、ユーザーへの技術サポートや製品提案が、これまで以上に求められています。当社はこうしたユーザーニーズを直接把握し、マーケットインの視点から販売拡大へとつなげるために、2006年9月、販売代理店から当社子会社「島精染染有限公司 (SHIMA SEIKI WIN WIN LTD.)」が事業を譲り受け、直販体制を築きました。

また2006年7月には、生産効率と経済性を両立させたコンピュータ横編機の新機種「SSG®」「SIG®」を世界に先駆け上海の展示会で発表しました。中国市場を意識し、コストパフォーマンスを上げたこの戦略的な新機種は好調な売れ行きを示しています。

当期、中国、香港向け横編機は前期比約70%増の販売台数となりましたが、その後も引き合いが好調で、その大半を新機種が占めています。

直販体制構築のもう一つの目的は、販売先の与信管理や売上債権管理の強化であり、この新興市場の安定的な成長に重要な課題となるため、新会社が担う役割はますます高まっています。



中国、香港市場の今後の展開

中国のニット業界は、従来の米国、欧州、日本向けに加え、中国国内のニューリッチ層向けの生産も増大し、編機需要が急速に拡大しており、当社工場では増産体制を敷いています。

すでにSHIMA SEIKI WIN WIN LTD.の本格的な事業活動が始まっています。直販体制に移行したことで、技術サポートを強化するとともに、需要の伸びが著しい上海・華東エリアでの販売に注力し、ユーザーサポート体制を強化するため、情報発信拠点の設置も検討しています。

旺盛な市況を背景に、直販体制のメリットを最大限に活用することで、中国、香港市場でのさらなる業容の拡大を見込んでいます。



常務取締役
経営管理部長
岩倉 煌一

in U.S.A. & EUROPE

世界のファッション発信・消費地 — 米国、欧州で

ホールガーメント[®]戦略を再構築し、 市場展開を加速します

ホールガーメント横編機の普及、浸透を加速するため、当期において米国および欧州での事業変革を推し進めました。

世界最大の消費地である米国では、2006年6月に大手ニットメーカー「NOVA KNITS INC.」の株式を取得し、7月には「ニューヨークデザインセンター」を開設しました。

この狙いは、ニューヨークデザインセンターと連携してNOVA社が最新のホールガーメント製品を生産し、消費地市場へ提案していくことにあります。さらに、米国市場で拡販する世界のアパレル企業へのサポートを図り、販売拡大につなげていきます。



また、ファッションの中心地イタリアでは、2006年12月に販売会社「SHIMA - ORSI S.r.l.」(2007年4月にS.p.A.に法人組織変更)を子会社化し、直販体制を築きました。今後、デザインシステムSDS - ONE[®]と一体化した付加価値の高いモノづくりを提案していきます。

これまで米国や欧州では、ホールガーメントの生産効率のよさが強調されて販売される傾向にありましたが、「セカンドスキン(第二の肌)」とも称される着心地の良さやデザイン性、クイックレスポンスなど多くのメリットを市場に浸透させる計画です。

消費地のユーザーは、高付加価値なモノづくりを求めています。当社はホールガーメントの優位性を訴求し、ユーザーに密着した販売・サポート体制を確立することで市場展開を加速させていきます。

in JAPAN

ホールガーメント[®]のワンピースが大ヒット

2006年秋冬商戦で、ホールガーメントのニットワンピースが大ヒット商品となりました。

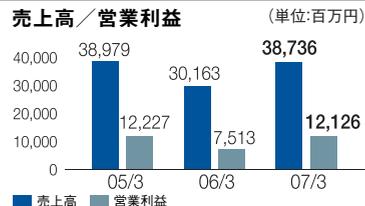
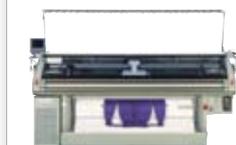
このワンピースは、株式会社ワールド様のブランド「INDIVI」のアイテムとして企画され、縫い目のないホールガーメントならではの抜群の着心地と、

洗練された美しいシルエットが、おしゃれな若い女性の熱い支持を集めました。シーズンをとおした追加オーダーは20回にも及び、ホールガーメントの特性を活かしてバリエーションを増やしながらクイックレスポンスで対応、数万枚のセールスとなりました。



営業活動のご報告(連結)

横編機事業



当社のコア・ビジネスである横編機事業の業界環境は、日本、欧州、米国などファッション性の高い多彩なデザインで短納期少量生産を行う消費地型生産地域と、中国、香港を中心とする労働集約型の大量生産地域との二極化が鮮明になっています。

消費地型生産地域のニット・アパレル業界に向けては、ホールガーメント[®]の先進性、独創性を訴求し、企画提案型企業としてのトータルソリューションを示すことで業界の活性化を進めてまいりました。

国内市場においては、製品の高品質・短納期化ニーズに対応すべく、ニット・アパレル業界に対してホールガーメントによる市場活性化を継続的に提案しました。一部ではホールガーメントを用いたニット生産における国内回帰の動きが見られたものの、製品輸入比率は依然として高水準にあり、積極的な設備投資には結びつきませんでした。

欧州では、イタリアを中心にホールガーメント横編機の拡販に傾注しましたが、本格的な受注の回復には至りませんでした。また、中東のトルコは、欧州やロシア市場に向けたニット製品の生産基地としての地位を占めてきたものの、中国製ニット製品との競合の影響を受け、設備投資は冷え込み、売上は大幅に減少しました。

こうした一方で、大量生産型市場の最大拠点である中国、香港においては、人件費高騰を背景とする生産体制の効率化ニーズの高まりによりコンピュータ横編機の需要が拡大し、さらに2006年7月に発表した生産効率と経済性に優れた新機種「SSG[®]」「SIG[®]」がユーザーから高い評価を受けたこともあり、売上を大きく伸ばしました。

これらの結果、横編機事業における売上高は387億36百万円(前期比28.4%増)となりました。

デザインシステム 関連事業



デザインシステム関連事業では、ニット・アパレル業界におけるトータルソリューションの核となるツールとして、時間短縮とコスト削減を実現したバーチャルサンプルや様々な新機能を拡充し、「SDS-ONE[®]」の提案販売に傾注しました。

海外市場ではイタリアを中心に前期をやや上回るペースで推移したものの、国内市場の停滞が響き、売上高は14億33百万円(前期比20.5%減)となりました。

手袋靴下編機事業



手袋靴下編機事業では、国内市場はやや回復したものの、主力である韓国市場の売上が中国製模倣機の影響を受けて大きく減少し、売上高は21億88百万円(前期比30.0%減)となりました。

その他事業

その他事業では、NOVA KNITS INC. によるニット製品販売事業が加わったことなどにより、売上高は47億20百万円(前期比69.4%増)となりました。

第46期(2006年4月～2007年3月)の取り組み

2006年

- 4月 18日 **受賞** 平成18年度「知財功労賞・経済産業大臣表彰」を受賞
19日 **展示会** ジャパン・クリエーション 2007 Spring/Summerに出展【東京】
- 5月 8日 **組織** 「内部統制システムの整備に関する基本方針」を策定、公表
14日 **放映** NHK総合テレビ「経済羅針盤」に社長の島が出演
17日 **出荷** コンピュータ横編機、8万台目を出荷
31日 **放映** 日本テレビ系列「1億人の大質問!? 笑ってコラえて!」で当社紹介
- 6月 14日 **展示会** 国際ニット技術展(IKAE2006)に出展【東京】
28日 **海外** 米国子会社がNOVA KNITS INC.の全株式を取得
29日 **組織** 第45回定時株主総会を開催し、新たに有北礼治を取締役に選任
- 7月 3日 **新製品** コストパフォーマンスを向上したコンピュータ横編機SSG[®]、SIG[®]および靴下編機SPF-Wを発表
5日 **展示会** 第12回上海国際紡織工業展(上海テックス)に出展
展示会 PITTI IMMAGINE FILATIに出展【イタリア】
25日 **組織** ニューヨークデザインセンターを開設
- 8月 21日 **出荷** デザインシステムSDS-ONE[®]、5千台目を出荷
30日 **展示会** 第8回上海国際流行紗線展示会(スピンエキスポ)に出展
- 9月 1日 **海外** SHIMA SEIKI WIN WIN LTD.が販売代理店から事業を譲り受ける【香港】
- 10月 1日 **CSR** 「シマセイキグループ行動基準」を公表
17日 **展示会** 中国国際繊維機械展覧会(CITME 2006)に出展
24日 **受賞** 「緑化優良工場等表彰 近畿経済産業局長賞」を受賞
- 11月 27日 **ファイナンス** 円貨建転換社債型新株予約権付社債を発行
- 12月 5日 **海外** SHIMA - ORSI S.r.l.の全持分を譲り受ける【イタリア】
6日 **展示会** ジャパン・クリエーション 2007 Autumn/Winterに出展【東京】

2007年

- 1月 31日 **展示会** PITTI IMMAGINE FILATIに出展【イタリア】
- 3月 7日 **展示会** 第9回上海国際流行紗線展示会(スピンエキスポ)に出展
13日 **受賞** 第53回(平成18年度)「大河内記念生産特賞」を受賞
16日 **展示会** 第41回大阪ミシンショー&ハンズフェスティバルに出展



当期のトピックス

■「大河内記念生産特賞」を受賞しました

～無縫製コンピュータ横編機およびデザインシステムを
活用したニット製品の高度生産方式の開発～

当社は2007年3月13日、第53回「大河内記念生産特賞」を受賞しました。同賞は、わが国において優れた独創的研究により、産業上、顕著な業績をあげた事業体に贈られる最も権威ある賞です。

今回の受賞は、裁断・縫製作業が必要な労働集約型のニット製品の生産からホールガーメント®横編機、デザインシステムを活用した知識集約型のモノづくりへの変革を図ってきたことが高く評価されたものです。

ホールガーメント横編機には他社の追従を許さない独自技術があります。当社は、ハードウェア、ソフトウェアだけにとどまらず、ホールガーメントの魅力をアピールするノウハウを総合的に提案することで、衣の文化創造の担い手として独創性あふれる技術開発に取り組み、世界のニット産業の活性化と発展に貢献していきます。



大河内賞とは…

財団法人大河内記念会は、故大河内正敏博士の功績を記念して1954年に設立され、その後今日まで博士の遺志となった「生産のための科学技術の振興」を目的として、大河内賞による表彰事業を実施しています。同賞は、毎年各方面からの推薦に基づき、わが国の生産技術の研究開発および高度生産方式の実施に関する顕著な功績を表彰するものです。その受賞の歴史においては、産業界が時代とともに発展してきた足跡をたどることができます。

■工場緑化の推進に貢献、 近畿経済産業局長賞を受賞しました

2006年10月24日、工場緑化を積極的に推進し、周辺地域の環境向上に貢献したことが認められ、2006年度の「緑化優良工場等表彰 近畿経済産業局長賞」を受賞しました。

当社の本社工場敷地内に占める緑地の割合は32%に達しており、四季の移ろいは地域にも潤いをもたらしています。今回の受賞は昨年度の財団法人日本緑化センター会長賞に続くもので、当社社長の島正博は「創業当初から、緑が多く働きやすい工場環境を目指してきたことが評価された」と述べています。



ホールガーメント[®]に関連する特許は1,000件を突破

当社は世界で初めて、完全無縫製型コンピュータ横編機「SWG」を開発し、1995年にイタリア・ミラノでのITMA展へ出展しました。ホールガーメントで大きな課題とされたのが、美観、強度、着心地感などを兼ね備えたニットウェアの実現でした。当社は、こうした課題を克服するためには編成技術の開発とその向上が不可欠であると考え、トータルデザインセンターでノウハ

ウとデザインを蓄積してきました。開発した編成技術は特許登録された上、デザインシステムのソフトウェアに活かされ、ホールガーメントの普及・浸透に大きく寄与しています。

10年余りを経過した現在、ホールガーメントに関連する横編機、編成技術ならびにデザインシステムの特許出願（公開・登録）件数は、国内で約200件、海外を含めると1,000件を超えています。

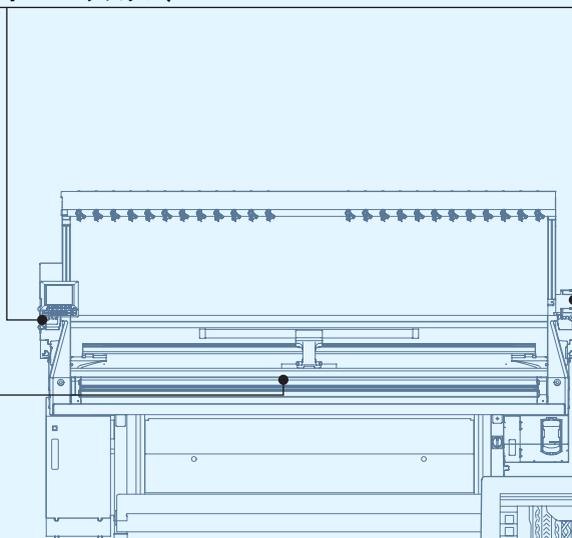
i-DSCS[®]（デジタルステッチコントロールシステム）

糸の供給量を自動的にコントロールし、ループ長を一定に保ちながら編地を製作できる。糸の伸縮や湿度の差などによるばらつきがなくなり、品質の向上に寄与している。



スライドニードル[®]／4枚ベッド

スライドニードルはホールガーメント横編機の4枚ベッドには欠かせない針。伝統的なラッチニードルでは6種類しかなかった編成テクニックが12種類にも増え、今まで考えられなかった編地の作成を可能にした。



SDS-ONE[®] バーチャルサンプル

店頭に並んでいるニット製品と遜色ないリアルなイメージでコンピュータ上に表現される仮想の製品サンプル。システム上で完成シミュレーションを確認できることで、企画・検討時間の飛躍的な短縮、大幅なコスト削減に貢献した。

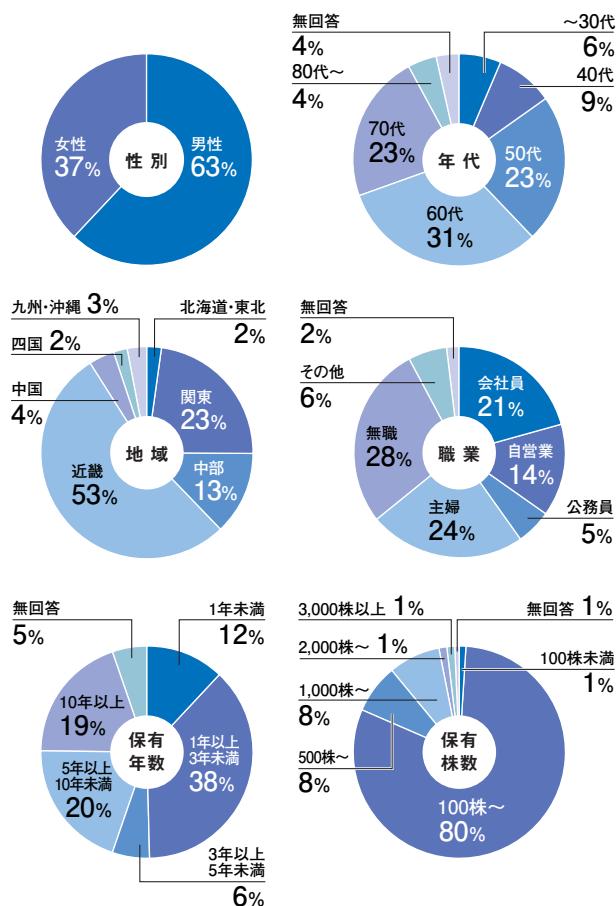


株主様アンケート結果のご報告

第46期中間期「株主のみなさまへ」(2006年9月期)においてアンケートを実施しましたところ、約3,000名の株主様からご回答をいただきました(回答率15.8%)。ご協力ありがとうございました。

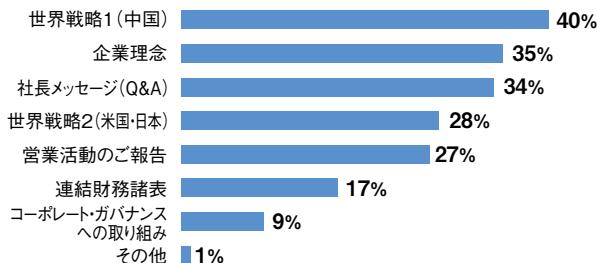
いただいたご意見を真摯に受け止めて、引き続きIR活動の充実に努める所存です。今後ともご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ご回答いただいた株主様のプロフィール



Q1 今回の「株主のみなさまへ」(中間期の報告書)で特に関心を持たれた内容はどれでしょうか?

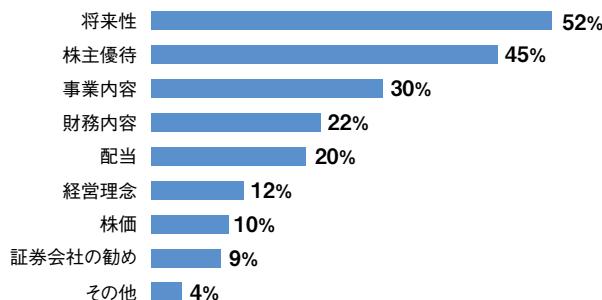
(複数回答)



「世界戦略1(中国)」「企業理念」「社長メッセージ(Q&A)」の順に高い回答率となりました。なかでも特集のテーマであった中国戦略は、株主様にとって関心が高い事項であることがわかりました。

Q2 当社の株式を購入された理由は何ですか?

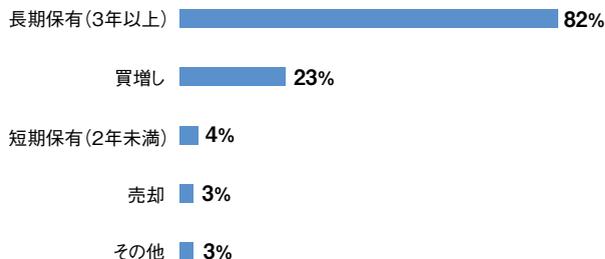
(複数回答)



「将来性」と「株主優待」が高く評価され、多くの株主様が当社の株式をご購入されました。

**Q 3 当社の株式について
今後どのようにお考えですか？**

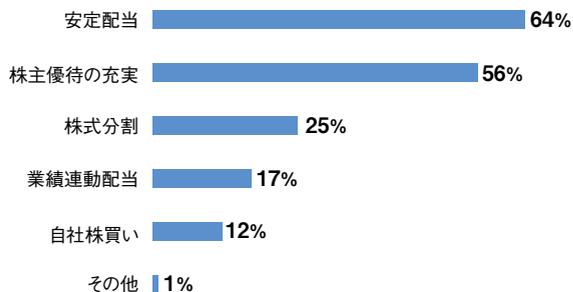
(複数回答)



「短期保有」が4%、「売却」が3%であったのに対して、「長期保有」が82%、「買増し」が23%であったことから、多くの株主様が長期の運用をお考えであることが伺えます。

**Q 4 株主還元に関して
当社に期待されることは何ですか？**

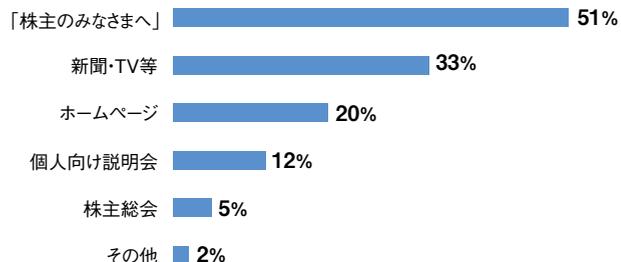
(複数回答)



ご回答いただいた株主様の半数以上の方が「安定配当」と「株主優待の充実」に高いご期待をお寄せいただいております。

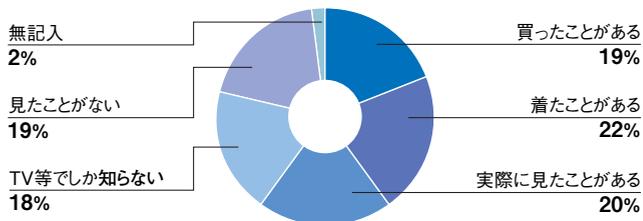
**Q 5 会社情報を提供する手段として
当社が今後充実すべきなのは？**

(複数回答)



当冊子「株主のみなさまへ」および「新聞・TV等」の充実を望む声が多く寄せられました。また、昨年(38%)と比べて、より多くの株主様が当冊子へ関心を寄せていただいていることがわかりました。

**Q 6 当社の編機で作られる
ホールガーメント®について**



6割以上の株主様から「買ったことがある」「着たことがある」「実際に見たことがある」とご回答いただき、昨年よりもホールガーメントの認知度が向上したと考えられます。さらに多くのみなさまに親しんでいただけるよう今後も普及に努めてまいります。

今回の株主様アンケートでは質問事項へのご回答の他に、多くのみなさまから当社へのご意見・ご要望等をいただきました。ここではいただいたご質問の中から一部抜粋して、回答とあわせて掲載いたします。

(それぞれのご質問には、書面で回答させていただいております。)

Q ホールガーメント®ではどのような製品ができますか？

A ホールガーメントには裁断・縫製の工程がなく、製品を一着まるごと立体的に編むことができます。そのため、伸縮性に優れ、軽量でごわつきがなく、また着心地がよい、シルエットが美しいといった特性があります。



ホールガーメントは縫いしろがないので、ワンピースやスカート、パンツといったシルエット重視のアイテムに最適であり、薄手の春夏物ニットにも向いています。また、帽子、手袋、マフラー、ネクタイ、靴下などの小物にも用途の広がりを見せています。さらに、伸縮性や通気性を重視するスポーツウェアや肌ざわりが求められるキッズウェアなど、裾野の拡大が進んでいます。



Q 当期純利益が予想より減少した理由は何ですか？

A 積極的な世界販売戦略を展開するため、米国ニットメーカーの全株式取得(2006年6月)とイタリアにおける販売代理店の子会社化(同年12月)に伴う関係債権などを、それぞれ貸倒損失や取引先支援損として特別損失に計上したためであり、今期に限った一過性のものと考えております。

Q 株主還元として配当より自社株買いを検討すべきでは？

A 株主還元策のひとつである自社株買いに関しては、機動的な資本政策として実施しており、3月末現在で約252万株を金庫株として保有しています。今後の活用策としては、昨年発行した転換社債型新株予約権付社債(CB)の転換株に充当することで、希薄化による株主価値の低下を防ぐことも検討しています。

Q 防災などリスクマネジメント体制は怎么样了？

A 想定される南海地震などの天災は、当社のリスク要因のひとつであると考えています。2005年12月に竣工した新工場では耐震構造を採用したほか、全社的にも耐震診断を実施しています。今後もさらに対策を講じる所存です。

また、原材料の調達においても、複数購入先の選定によるリスク分散を進めるなど、安定的な生産体制の構築に努めています。

Q 敵対的買収に対し、どのような対策をとっていますか？

A 現状では、敵対的買収に対しては各社で様々な対策が取られています。当社といたしましても、最近の動向を参考に検証を進めているところですが、本業の業績アップに傾注し、株価を安定向上させることが、敵対的買収を防ぐために最も有効であると考えています。

株主優待のご紹介

当社は、毎年3月末日と9月末日を基準日として、単元株主様への株主優待を実施しています。

2007年3月期のご優待品はホールガーメント®製品をはじめ、ご所有の株式数に応じてお選びいただけるようにいたしました。

“人に、地球にやさしく”をコンセプトに、お届けするホールガーメント製品はデザインにも素材にもこだわったオリジナル製品です。

今後も当社は、株主のみなさまにお喜びいただけるご優待品を企画してまいります。

お寄せいただいた株主のみなさまの声より

- ホールガーメントのマフラーや手袋、使いやすく大切にしています。これからも楽しみにしています。
- 3月の優待について、選択ができたのは大変良かったです。次回も選択できるようにお願いしたい。
- 毎年の素敵な株主優待品に胸をときめかせています。特に貴社のホールガーメント製品がうれしいです。

2007年3月期の株主優待品

100株以上
1,000株未満



ウォームソックスレット 10色展開

1,000株以上 (下記よりいずれか1点のお届けとなります)



メンズプルオーバー
3色展開



レディースカーディガン
3色展開



イタリアワイン2本セット

ご優待対象の株主様には、6月中旬ごろ冊子小包郵便にて「株主優待のご案内」をお送りしております。詳しくはそちらをご覧ください。なお、品物の発送は10月ごろを予定しております。

- メンズプルオーバーおよびレディースカーディガンは、持株数に応じて素材が異なります。
- イタリアワインセットは持株数に応じて内容が異なります。

連結財務諸表(要約)

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当期 2007年3月31日現在	前期 2006年3月31日現在
流動資産	81,239	76,573
現金及び預金	15,212	9,976
受取手形及び売掛金 ①	43,706	53,624
その他	24,646	15,880
貸倒引当金	△ 2,325	△ 2,909
固定資産	47,921	32,729
有形固定資産	21,500	19,449
土地	10,668	10,645
その他	10,831	8,804
無形固定資産	10,921	143
のれん ②	10,767	—
その他	154	143
投資その他の資産	15,499	13,136
投資有価証券	9,579	5,785
その他	7,018	8,492
貸倒引当金	△ 1,098	△ 1,141
資産合計	129,161	109,302

ポイント① 受取手形及び売掛金

受取手形及び売掛金は前期末に比べて99億18百万円減少しました。

ポイント② のれん

香港販売子会社の営業譲受及びイタリア販売子会社買収に伴い、のれんを計上しました。

ポイント③ 新株予約権付社債

経営基盤の強化ならびに今後の事業展開に備え、新株予約権付社債を発行し、資金調達を行いました。

ポイント④ 自己株式

経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を行うため、自己株式を取得しました。

科目	当期 2007年3月31日現在	前期 2006年3月31日現在
流動負債	20,509	11,307
支払手形及び買掛金	7,481	4,231
その他	13,028	7,076
固定負債	15,841	2,472
新株予約権付社債 ③	10,045	—
長期借入金	3,071	—
退職給付引当金	1,711	1,547
役員退職慰労引当金	1,012	925
負債合計	36,351	13,780
株主資本	96,301	98,905
資本金	14,859	14,859
資本剰余金	21,724	21,724
利益剰余金	66,713	65,008
自己株式 ④	△ 6,995	△ 2,687
評価・換算差額等	△ 6,986	△ 3,574
その他有価証券評価差額金	269	913
土地再評価差額金	△ 7,518	△ 4,493
為替換算調整勘定	262	5
少数株主持分	3,494	191
純資産合計	92,810	95,522
負債及び純資産合計	129,161	109,302

※ 前期は当期の表示区分に合わせ一部を組み替えて表示しています。

ポイント⑤ 売上高

中国、香港市場におけるコンピュータ横編機の販売が好調で、売上高は過去最高となりました。

ポイント⑥ 営業利益

増産による原価低減や経費節減の推進により、前期比91.6%増と大幅な伸びとなりました。

ポイント⑦ 経常利益

為替相場が円安傾向に推移し為替差益が発生したことなどにより、前期比67.7%増となりました。

ポイント⑧ 当期純利益

海外市場における事業再編に伴う特別損失の計上などにより、前期比8.5%減となりました。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当 期	前 期
	2006年4月 1 日から 2007年3月31日まで	2005年4月 1 日から 2006年3月31日まで
売上高 ⑤	47,079	37,879
売上原価	25,013	21,100
売上総利益	22,066	16,779
販売費及び一般管理費	14,357	12,756
営業利益 ⑥	7,709	4,023
営業外収益	2,039	1,699
営業外費用	297	87
経常利益 ⑦	9,450	5,634
特別利益	1,607	—
特別損失	4,874	341
税金等調整前当期純利益	6,182	5,293
法人税、住民税及び事業税	3,381	2,202
法人税等調整額	△ 615	△ 302
少数株主利益又は損失(△)	302	△ 11
当期純利益 ⑧	3,113	3,404

連結株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算差額等				少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	土地 再評価 差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2006年3月31日残高	14,859	21,724	65,008	△2,687	98,905	913	△4,493	5	△3,574	191	95,522
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△1,374		△1,374						△1,374
役員賞与			△34		△34						△34
当期純利益			3,113		3,113						3,113
自己株式の取得				△4,308	△4,308						△4,308
自己株式の処分		0		0	0						0
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						△643	△3,024	256	△3,411	3,303	△108
連結会計年度中の変動額合計	—	0	1,704	△4,308	△2,603	△643	△3,024	256	△3,411	3,303	△2,711
2007年3月31日残高	14,859	21,724	66,713	△6,995	96,301	269	△7,518	262	△6,986	3,494	92,810

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当 期	前 期
	2006年4月 1 日から 2007年3月31日まで	2005年4月 1 日から 2006年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー ⑨	10,691	4,754
投資活動によるキャッシュ・フロー ⑩	△ 16,222	△ 3,512
財務活動によるキャッシュ・フロー ⑪	12,225	△ 1,386
現金及び現金同等物に係る換算差額	149	159
現金及び現金同等物の増加額	6,843	15
現金及び現金同等物の期首残高	9,110	8,998
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	96
現金及び現金同等物の期末残高	15,954	9,110

ポイント ⑨ 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益及び非資金項目の金額の増加などにより、営業活動による収入は増加しました。

ポイント ⑩ 投資活動によるキャッシュ・フロー

営業譲受による支出や投資有価証券の取得などにより、投資活動での支出は前期に比べ127億9百万円増加しました。

ポイント ⑪ 財務活動によるキャッシュ・フロー

新株予約権付社債の発行や香港子会社の少数株主への株式の発行による収入などにより、財務活動による収入は増加しました。

会社概要

■ 会社概要 (2007年3月31日現在)

商号	株式会社島精機製作所
(英文表記)	SHIMA SEIKI MFG., LTD.
本社	和歌山市坂田85番地
創立	1962年2月4日
資本金	148億5,980万円
従業員	1,060名(連結1,584名)
事業内容	コンピュータ横編機 コンピュータデザインシステム アパレルCAD/CAMシステム シームレス手袋編機、靴下編機

■ 事業所 (2007年6月28日現在)

本社	和歌山市坂田85番地
支店	東京支店 (東京都中央区) 大阪支店 (大阪市北区) 名古屋支店 (名古屋市中区) 泉州支店 (大阪府泉大津市)
営業所	山形営業所 (山形県山形市) 福島営業所 (福島県伊達市) 新潟営業所 (新潟県五泉市) 甲府営業所 (山梨県中巨摩郡昭和町) 四国営業所 (香川県東かがわ市)
海外支店	台北支店 (台北市)

■ 役員 (2007年6月28日現在)

地位	氏名	担当または主な職業
代表取締役社長	島 正博	
専務取締役	田中 雅夫	総務部、内部監査室担当兼経理部長
常務取締役	岩倉 煌一	営業部担当兼経営管理部長
常務取締役	島 三博	制御システム開発部、知的財産部、トータルデザインセンター担当兼グラフィックシステム開発部長
取締役	京谷 実	生産技術部長
取締役	森田 敏明	資材部長
取締役	和田 隆	製造技術部長
取締役	片桐 正二郎	企画部長
取締役	梅田 郁人	輸出部長
取締役	藤田 紀	総務部長
取締役	有北 礼治	メカ口開発部長
常勤監査役	大川 修	
常勤監査役	沖殿 俊幸	
監査役	的場 悠紀	弁護士
監査役	八杉 昌利	税理士

(注) 監査役 的場悠紀、八杉昌利の両氏は、社外監査役であります。

■ 連結子会社 (2007年6月28日現在)

株式会社シマファインプレス	(和歌山県和歌山市)
株式会社ニットマック	(和歌山県和歌山市)
ティーエスエム工業株式会社	(和歌山県和歌山市)
株式会社海南精密	(和歌山県海南市)
株式会社ツカダシマセイキ	(群馬県太田市)
株式会社マーキーズ	(和歌山県和歌山市)
SHIMA SEIKI EUROPE LTD.	(イギリス)
SHIMA SEIKI U.S.A. INC.	(アメリカ)
SHIMA SEIKI WIN WIN LTD.	(香港)
NOVA KNITS INC.	(アメリカ)
SHIMA - ORSI S.p.A.	(イタリア)

株式概要

株式の状況 (2007年3月31日現在)

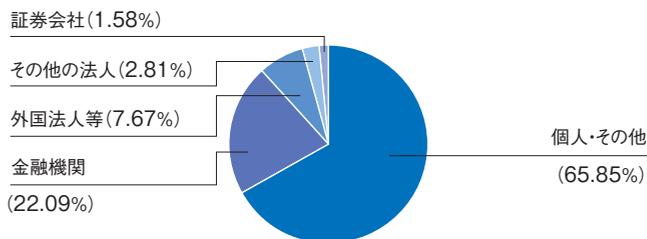
- ① 発行可能株式総数 142,000,000株
- ② 発行済株式の総数 37,600,000株
- ③ 当期末株主数 17,721名
- ④ 大株主

(千株未満切捨て)

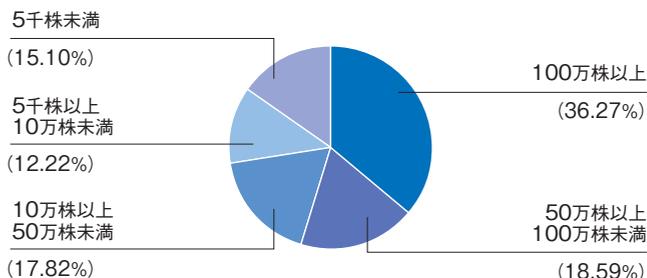
株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
島 正 博	5,005	14.27
島 三 博	1,980	5.65
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,872	5.34
株式会社紀陽銀行	1,220	3.48
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,030	2.94
シマセイキ社員持株会	948	2.70
和島興産株式会社	810	2.31
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	770	2.20
島 節 子	726	2.07
後 藤 ひ ろ み	697	1.99

(注) 当社は、自己株式2,529千株を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。
出資比率は、自己株式を控除して算出しております。

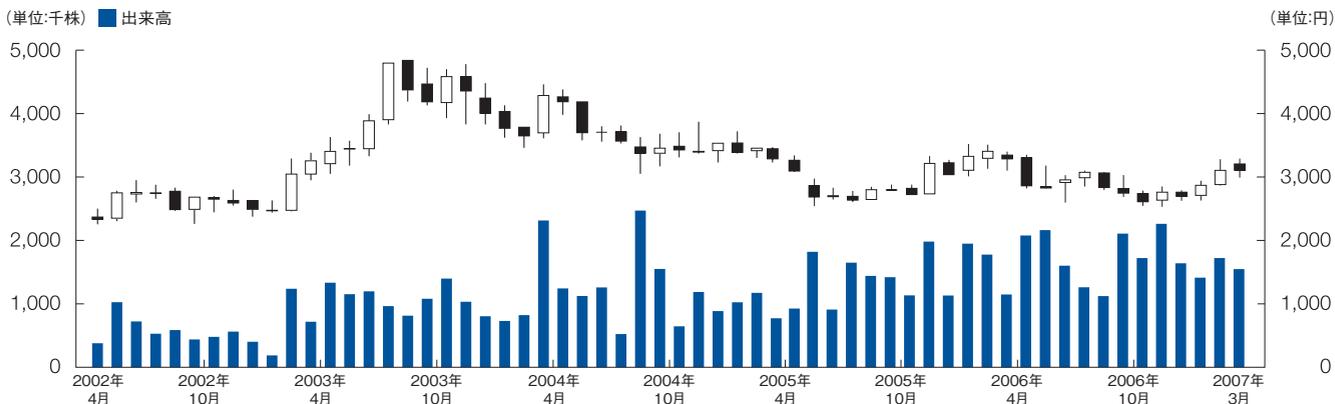
所有者別分布



所有数別分布



株価と出来高の推移 (過去5年間)



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 基準日 3月31日
開催日 毎年6月
配当金受領株主確定日 期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日
公告方法 電子公告
下記当社ホームページに掲載

(<http://www.shimaseiki.co.jp/irj/irj.html>)
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号
(お問合せ先) 三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
電話(フリーダイヤル) 0120-094-777
同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店

● 株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行株式会社の電話およびインターネットでも24時間承っております。

電話(フリーダイヤル) 0120-244-479(本店証券代行部)
0120-684-479(大阪証券代行部)
インターネットホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

ホームページのIR情報「株主・投資家のみなさまへ」をリニューアルしました。(2007年4月)

基本的な決算情報に加え、個人投資家のみなさまからご要望の多かった配当、株主優待などの情報を充実。さらに当社の事業をより理解していただくための用語集やFAQ(よくある質問と回答)を設けました。ぜひ一度ご覧ください。



<http://www.shimaseiki.co.jp/irj/irj.html>



株式会社島精機製作所

〒641-8511 和歌山市坂田85番地
TEL(073)471-0511(代表)

<http://www.shimaseiki.co.jp/>

ホールゲームメント、SDS-ONE、SSG、SIG、DSCSおよびスライドニードルは株式会社島精機製作所の登録商標です。



地球環境に配慮した再生紙を使用しています。